丹頂之舞

佐々木岳甫

寒山映し出す青湖の水
丹頂来り遊ぶ釧路州
忽ち霧煙散じて旭日昇れば
東天の比翼瑞鳴悠なり

【作者】佐々木岳甫（一九〇七～一九八〇年）（明治四十年～昭和五十五年）、現代漢詩家、札幌の人、宣伝美術家、クラブ工芸社社長の傍ら吟詠評論家として活躍した。昭和五十五年七十三歳で没した。

【語釈】＊丹頂…丹頂鶴のこと。　＊寒山…阿寒岳。　＊青湖…青々とした湖沼。　＊霧煙…きり
＊比翼…二羽の鳥が翼を揃えて飛ぶこと。　＊瑞鳴…めでたい鳴き声。

【通釈】阿寒岳が映っている青々とした釧路の湖に、丹頂鶴が飛んできて遊んでいる。突然、霧が晴れて朝日が昇ってくると、東の空に二羽の夫婦鶴が、めでたい鳴き声をあげながら、悠々と飛んでいる。